

車イスでも
ぜんぶできる庭

取材・レポート「めいけん」研究會 編集部 和久秀



車イスになると、動くのが面倒くさくなる。使いにいと、なおさら手をつけたくなくなる。しかし、少しの工夫で充分楽しめる庭はできるのです。

花壇の高さを上げたり、花壇の下に足が入るようにする。手の届く高さには、植物を植えたりしてあげれば良い。

狭い庭でも、工夫次第で落ち着けるプライベート空間が作れます。お茶や読書はもちろん、家族や友人とのパーティーだって楽しめます。

緩やかなスロープから展望台に上がれば、さらに高く広い視点で景色を眺めることができます。

「このような身近な幸せを、感じる事ができることを知ってほしい。味わうことができることを知ってほしい。そのような想いで創りました」と加瀬氏は語ってくれました。



加瀬 賢治：
建築士・福祉住環境コーディネーター
1988年3月22日生。大学にて建築を学び、2010年に相陽建設㈱に入社。Green2(グリーングリーン)事業部に配属となり外構、エクステリアの営業、設計、現場監督を経験。2013年スノーボードの事故で首を骨折して頸髄損傷し、車イス生活になる。1年半のリハビリの後、2014年10月に職場復帰して、自分自身の生活を最大限活かすバリアフリー設計に携わる。2016年国際パラとガーデニングショーに作品を出展、バリアフリー設計者としての第1歩を踏み出す。

